

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

116

福島県立美術館移動展

ふるさと会津の人と四季

—福島県立美術館名品展—

福島県立博物館



ふるさと会津の人と四季

— 福島県立美術館名品展 —

◇ 展覧会趣旨

二〇一四年に開館30周年を迎えた、福島市にある福島県立美術館は、近現代の欧米・日本の美術と県出身作家の作品を中心に、三〇〇〇点以上の美術品を収蔵しています。

これらの収蔵作品を県内各地で気軽に鑑賞してもらおうと、今年度は、福島県立博物館にて会津出身・ゆかりの画家たちの名品展を開催いたします。

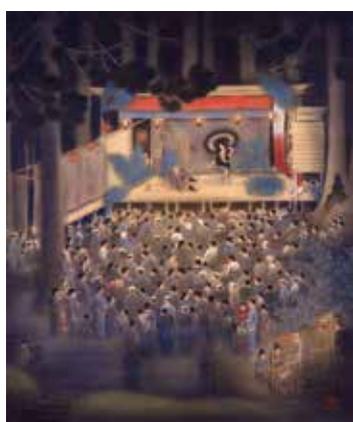
長い歴史を刻んできた会津地方では、美術愛好家の惜しめない支援もあり、美術を育む風土が近代以降も脈々と息づいています。こうして、日本画では湯田玉水、坂内青嵐、酒井三良など、水彩画では相田直彦、春日部たすく、渡部菊二など、個性あふれる画家たちを輩出しました。さらに、会津坂下町出身の斎藤清は、会津の風景を独自の造形感覚で表現し、戦後日本を代表する版画家となりました。

この展覧会は、会津の画家たちによる多彩な近代美術の魅力を、約50点の日本画、水彩画、版画により探っていきます。豊かな風土が育んだ会津文化の広がりをご堪能いただければ幸いです。

会期 平成27年5月2日(土)～6月21日(日)
会場 福島県立博物館(企画展示室)



坂内青嵐 運動会之図



酒井三良 村芝居



渡部菊二 勤労の娘たち



菊地養之助 煙突の下の子供達



猪卷清明 はさみ将棋

○展覧会基礎情報

開館時間 9:30～17:00 (16:30までに入館)

休館日 5月7日(木)、5月11日(月)、5月18日(月)、5月25日(月)、

6月1日(月)、6月8日(月)、6月15日(月)

会場 福島県立博物館企画展示室

観覧料 常設展料金でご覧いただけます

一般・大学生270円(210円)、高校生・小学生・中学生無料

(*) 内は20名以上の団体料金

主催 福島県立美術館 福島県立博物館

内容 会津出身・ゆかりの作家15作家、出品点数約50点

●日本画：小川芋銭うまぜん、湯田玉水、坂内青嵐、猪卷清明せいめい、酒井三良、酒井白澄はくしょう

菊地養之助

●水彩画：相田直彦、赤城泰舒あかぎのやすし、春日部たすく、渡部菊二・百合子、

長沢節

●版 画：森田恒友、斎藤清

○関連イベント情報

■福島県立美術館学芸員によるギャラリートーク

日 時 5月2日(土)、5月16日(土)、6月21日(日)

■公開対談「喜多方美術倶楽部」について

日 時 6月6日(土)

対談者 後藤學氏(喜多方市美術館館長)・増淵鏡子(福島県立美術館学芸員)

会場 福島県立博物館企画展示室



小川芋銭 細道絵日記

● 特集展解説会

日時：2月7日（土）・14日（土）・28日（土）3月7日（土）・8日（日）
3月14日（土）・22日（日） 各回とも13時30分～15時

講師：郡山女子大学短期大学部文化学科・専攻科文化学専攻 学生有志

特集展解説会は、これまでの当館展示の解説会とは趣向を変えて、実際に発掘調査に携わった学生さんたちが観覧者を前に解説を行いました。当初の予定では2回だけの限定解説会でしたが、学生さんたちの熱い要望により合計7回実施することができました。

学生さんたちは、日ごろの研究の成果を緊張した面持ちで観覧者のみなさんにわかりやすく解説していました。調査中に土の中からカワセミが飛び出したり、調査場所の近くに天然記念物のカモシカが登場したりした時の話など、発掘調査の作業を紹介したパネルだけでは分からないユニークなエピソードがたくさん紹介され、発掘調査の様子がイキイキと伝わってくる解説でした。観覧者の方々からは大好評でした。



郡山女子短期大学の学生による解説会

また、展示観覧者向けに同大学食物栄養学科との共同企画により縄文土器に似せて作った「ドキ土器クッキー」が製作され、来館者へのプレゼントとして配られて好評を博しました。

た。見た目にも縄文土器にそっくりで、食べてみると豊かな味わいのクッキーは商品として売り出すこともできるぐらいの出来でした。解説を担当した学生さんと観覧者の方々、それぞれが和やかな雰囲気の中で相互に交流しながら解説会を楽しむことができたようです。

● 特集展記念講演会

「発掘ガールに囲まれて―私の考古学―」

日時：3月8日（日） 13時30分～15時

講師：郡山女子大学短期大学部 准教授 會田容弘氏

特集展記念講演会は會田先生の和やかな語り口で始まり、楽しい雰囲気の中で発掘調査に関わるさまざまなエピソードが紹介されました。郡山女子大学に赴任され発掘ガールを誕生させるまでの會田先生の考古学の歩みや、會田先生が提唱なさっている新しい研究方法の検証の場として笹山原遺跡の発掘調査が重要な役割を果たしていることなどが紹介されました。

学生さんたちの楽しい考古学実習の陰には新たな考古学研究を目指した先生の研究に対する挑戦の姿が隠されていたこともわかりました。

會田先生の考古学者としての歩みは、まさに考古学という学問が目指している「過去の人々の生活のようすを如何に具体的に復元していくのか。」という命題に近づいていこうとする研究者の足跡をよく表していると言えます。このような「考古学者 會田容弘」の志が、発掘調



発掘ガール記念講演会の様子 講演は會田容弘氏

査という活動を通して郡山女子大学短期大学部の学生たちに確実に伝わっていることが、今回の展示で感じることができました。学生たちが自ら展示を企画し、自分たちの発掘の成果を多くの人たちに伝えたいという思いと実現させた彼女たちの思いの裏には、まさに會田先生の日ごろからの考古学に対する熱い情熱が働いていたことは間違いないと思います。学生たちを暖かく見守り、そして時に厳しく育てておられる會田先生の日常がよく伝わってくるエピソードもたくさん紹介され、会場からの惜しみない拍手の中、講演会は成功裏に終わりました。講演会終了後も学生たちによる解説会が実施され、多くの方が展示を楽しみました。

Q「ふるさと会津の人と四季」県立美術館名品展」の見どころを教えてください。

福島市にある福島県立美術館は近現代の欧米・日本の美術と県出身作家の作品を中心にこれまで3千点以上の美術品を収蔵してきました。おかげさまで昨年開館30周年を迎えましたが、設備の老朽化にともなう改修工事のため4月から約1年間休館いたします。そのよ
うな経緯から、平成27年度は福島県立博物館にて「ふるさと会津の人と四季」県立美術館名品展」を開催するはこびとなりました。この展覧会では会津出身・ゆかりの画家たちの日本画、水彩画、版画約60点が一堂に会します。どれもコレクションの核として普段美術館の外に出ることがめったにないものばかりです。

Q 会津出身・ゆかりの画家にはどのような人がいますか？

この展覧会は「喜多方美術倶楽部と会津の日本画家たち」「会津水彩画家の系譜」「斎藤清の世界」という、大きく3つの章で構成されています。喜多方美術倶楽部とは、地方の美術振興のため大正7年に結成された美術愛好団体です。主催したのは喜多方市山都の素封家田代与三久（号・蘇陽）。彼は小川芋銭や森田恒友など中央から多くの芸術家たちを会津に呼び寄せま

福島県立美術館移動展

Q & A 回答者

福島県立美術館学芸員

坂本篤史

ふるさと会津の人と四季

— 福島県立美術館名品展 —



相田直彦 花

した。田代の別荘・南山荘は来遊する芸術家たちの社交場となります。そのひとりに三島町出身の酒井三良がいます。彼はこの南山荘で生涯の師と仰ぐ芋銭に出会い、日本美術院同人として中央画壇で活動する作家に成長しました。本展覧会では、第二回国画創作協会に入選を果たした《雪に埋もれつつ正月はゆく》をはじめ彼の代表作が並びます。また《冬暖》（改組第一回帝展入選作）は平成26年度当館新収蔵作品として初のお披露目となります。

Q 会津の四季と自然も魅力だったのでしょ
うか？

こうした美術愛好家からの支援にくわえて芸術家たちを引き寄せたのは、会津の雄大な自然でした。画家の太下藤次郎（本展不出品）は、磐梯山の噴火によって新たな景観が生まれた裏磐梯を訪れ、その風景を水彩画に描き雑誌『みづゑ』に発表しました。こうした大下のはたらきによって、会津にも多くの水彩画家たちが登場します。明治、大正期には相田直彦、赤城泰舒が、さらに昭和に入ると春日部たすく、渡部菊二、長沢節らが出ます。なかでも渡部菊二は、抽象化したフォルムや装飾的な色彩表現など水彩画の新たな可能性を切り開きました。本展では彼の代表作《勤労の娘たち》などが並びます。

会津の風景とりわけ冬景色は、戦後日本を代表する会津坂下町出身の版画家・斎藤清にも大きな制作意欲を与えました。1970年代から本格的に制作を始めたシリーズ「会津の冬」は、簡潔な構図とほぼモノトーンの控えめな色調によって独自の世界をつくりあげました。本展覧会では会津の冬景色を表した版画や珍しい一点物の墨画を展示いたします。ふるさと会津の豊かな自然は、画家たちを魅了し、美術を愛する支援者を育て、多様な美術家の心のよりどころとなりました。そうした会津の人と自然のありようを展覧会でぜひごらんください。

ふくしまの凧

佐々木長生 民俗担当

福島県内には、会津の「唐人凧」や、伊達市保原町の「福島凧」などがよく知られています。また、須賀川市には「須賀川羽子板」と呼ばれる伝統玩具があり、かつての製造元には鳶の形をした凧絵の版木が残っており、凧を制作していたことがうかがえます。郡山市西田町高柴のデコ屋敷の橋本家にも、凧絵の版木が残されており、古くはデコ屋敷でも、凧を制作していたようです。三春地方には武者絵の凧は見られず、龍の字と源氏車の凧絵が多かったといえます。

凧は玩具としてだけでなく、大空に勢いよく舞い上る姿から、子どもの成長を祈願して贈る習俗は、各地にあります。伊達市保原町では、厄年の男女が一月一四日に親類の男児に凧を贈り、女兒には風船を贈る習俗がありました。



会津唐人凧えんま大王（郡山市湖南町）

郡山市湖南町では、男児が生まれると、子ども名前を書いた奴子凧を贈り、これをあげて成長を祈りました。会津には、古くから奴子凧がありましたがその形態は不明でした。一昨年明治35年銘のものを、かろうじて収集できました。会津の奴子凧の形態を示す貴重な資料です。湖南町の奴子凧と形態がよく似ております。また、福島市土湯温泉では、小正月一四日の予祝行事カセドリに來た子どもたちに、厄年の人がテンバタと呼ぶ小さな角凧をあげる習俗もありました。宮城県内では、凧をテンバタと呼んでいます。テンバタは「天狗の旗」の略とみられ、福島県北地方にもその呼称があります。

会津の唐人凧は、伝播経路やその由来については不明です。同形のものが長崎にもあり、「どろじんだこ」と呼んでいます。一説には、長崎に出入りしていた貿易商人が、会津に持参したとも言われています。唐人凧は主に日本海沿岸に分布し、内陸部の会津地方に存在するのは珍しいことです。唐人凧は、形状から言えば奴子凧に属し、卵形の骨組2個を組み合せた形で、下部が全長の約半分を占めているのが特徴です。唐人凧の図柄には、旭日渡波・桃太郎・えんま大王があります。えんま大王が代表的な図柄で、「べろ出し」などとも呼ばれ、目をむき出し、大きな口から長い舌を出した唐人武者の兜に、鬼がかみついている勇壮な絵が描かれ、魔除けの意味もあります。

唐人凧が、いつごろから揚げられるようになったのか、その歴史は不明です。唐人凧は、会津地方の少年たちに愛好された凧で、揚げる

ときには細い藁縄の尾を付けて揚げます。伝承によると、凧糸に刃物を付けたたり、尾に仕掛けをしたりしてケンカをさせたもので、凧合戦専用の凧があったとも言われています。また戊辰戦争の折、若松城（鶴ヶ城）内から唐人凧を揚げて、敵方を驚かしたというエピソードも伝えられています。遠藤香村の門人である一重其村の明治2年（1869）の画帖に、唐人凧が描かれており、明治以前から存在したことは明らかです。今回展示した唐人凧は明治28年銘のものもあり、会津の唐人凧の歴史を知るうえで、貴重な資料です。現在、唐人凧の制作は、数名の工人に継承されています。



3月18日まで開催された民俗部門展示室 ポイント展「ふくしまの凧」展示の様子

中里 壽 作品展 — 自然へのまなざし —

会津若松市出身の漆芸家・中里壽（なかざと とし）は、東京藝術大学で日本を代表する漆芸家・松田権六に学び、精緻な漆芸技法と豊かな表現力を受け継ぎました。大学卒業後に携わった奈良時代、平安時代などの漆芸品の保存修復研究は、中里の作品に古代の漆芸品にも通ずる、どこか大陸的なおおらかさを与えています。

古代から現代の漆芸に培われた中里の高い技術と表現力が一貫して表してきたのは、自然へのまなざしでした。それは例えば、故郷・会津の家の庭の桜桃や、海をこえてやってきた異国の鳥へ向けられたもの。中里の作品からは、生きとし生けるものへの作家の思いが伝わってきます。

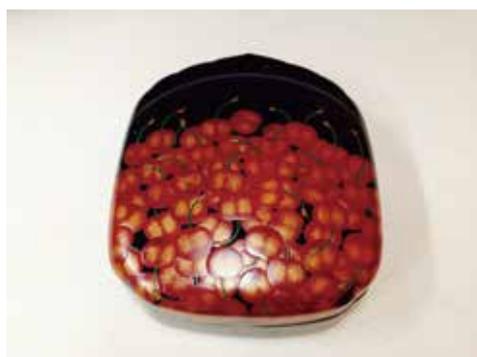
昨年、中里作品のコレクター内藤政男・洋子ご夫妻のご厚意により当館に寄贈された中里壽作品の初公開として、この度テーマ展「内藤コレクション寄贈記念 中里壽作品展—自然へのまなざし—」を開催します。20代から近年までの中里作品を一堂にご覧いただけるまたとない機会です。ぜひお運びください。

会期：4月25日（土）～6月21日（日）*会期中展示替を行います。

料金：常設展料金でご覧いただけます。

トピックス

テーマ展 中里壽作品展



櫻桃蒔絵花形小箱



鸚鵡蒔絵小箱

■会期：平成27年7月18日（土）～9月13日（日）



人の顔が表された縄文土器
(いわき市愛谷遺跡)

東日本大震災で大きな被害を受けた浜通り地方も発災後4年が経過し、復興が進んでいます。これまでの復興事業に伴う発掘調査により、浜通り地方の新しい歴史が次々と明らかになってきました。今回の展示では浜通り地方が福島県、東北地方、さらに日本全体の歴史の中で、どのような役割を果たした地域なのかを解き明かしていきます。発掘資料のつぶやきから浜通り地方の意外な真実を発見できるはずです。

(荒木隆 考古担当)

夏の企画展 予告

「被災地からの考古学Ⅰ」
— 福島県浜通り地方の原始・古代 —

福島県立美術館移動展

*常設展料金でご覧いただけます

ふるさと会津の人と四季

福島県立美術館名品展

会期 5月2日(土)～6月21日(日)

◎関連事業

「ギャラリートーク」

日時 ①5月2日(土) 13時30分～14時30分
②5月16日(土) 13時30分～14時30分
③6月21日(日) 13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 企画展示室

講師 ①福島県立美術館長 早川 博明さん
②福島県立美術館学芸員 坂本篤史さん
③福島県立美術館学芸員 堀 宣雄さん

◎公開対談『喜多方美術倶楽部について』

日時 6月6日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 企画展示室

講師 喜多方市美術館長 後藤 學さん
福島県立美術館学芸員 増淵鏡子さん

テーマ展

*常設展料金でご覧いただけます

「ふるさとの考古資料5」【富岡町】遺跡探訪

会期 5月27日(土)～5月30日(日)

内藤コレクション寄贈記念

「中里壽作品展―自然へのまなごし―」

会期 4月25日(土)～6月21日(日)

「ふるさとの考古資料6」【飯館町】遺跡探訪

会期 6月20日(土)～H28年5月8日(日)

ポイント展

*常設展料金でご覧いただけます

「喜多方市泉福寺の大日如来像」

会期 4月14日(火)～5月10日(日)

「蒲生氏郷像」

会期 4月14日(火)～5月10日(日)

「会津恵日寺の宝物」

会期 4月14日(火)～6月7日(日)

「近世に書かれた中世の城絵図」

会期 4月14日(火)～6月7日(日)

「松平定信像」

会期 4月14日(火)～6月7日(日)

「戊辰戦記絵巻物」

会期 4月14日(火)～6月7日(日)

「万祝(まいわい)―大漁の祝い着―」

会期 4月17日(金)～6月10日(水)

「まぼろしの土人形―根子町人形―」

会期 6月12日(金)～8月12日(水)

館長講座

無料

「司馬遼太郎の東北紀行」

日時 ①4月16日(木) 13時30分～14時30分
②5月21日(木) 13時30分～14時30分
③6月18日(木) 13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館 講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

*は要申込

◎保存科学講座

※「博物館の裏側」

「保存科学の仕事のそとごとく」

日時 4月18日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 実習室・展示室

講師 学芸員 杉崎佐保恵

◎民俗講座

「映像でみるふくしま伝承の技①」

『紙を漉く技術』

「ふくしまの手漉き和紙」

日時 5月16日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 講堂

講師 学芸員 大里正樹

◎歴史講座

※「おもしろ資料で読む歴史」

日時 ①6月13日(土) 13時30分～15時
②6月20日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 ①学芸員 阿部綾子
②学芸員 高橋 充

◎実技講座

※「小旗を作ろう」

日時 5月5日(火・祝) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 伝統技術保持者

大野青峯さん 大野久子さん

◎企画展「被災地からの考古学」関連講座

※「壁画古墳の模型を作ろう」

日時 ①4月25日(土) 10時～15時
②5月23日(土) 10時～15時
③5月30日(土) 10時～15時

会場 福島県立博物館 実習室

講師 学芸員 荒木 隆

◎ギャラリートーク

「展示資料から見る古代のふくしま」

日時 ①4月12日(日) 13時30分～14時
②5月10日(日) 13時30分～14時
③6月14日(日) 13時30分～14時

会場 福島県立博物館 総合展示室「古代」

講師 学芸員 荒木 隆

ミュージアムイベント

「玄如節と会津の民謡」

日時 6月27日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 エントランスホール

出演 玄如節顕彰会のみなさま

実演「大堀相馬焼の絵付け」

日時 6月21日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館 体験学習室

出演 大堀相馬焼窯元 休閑薫 半谷みどりさん

「紙芝居『スーパージョージ』」

日時 ①4月26日(日) 13時30分～14時
②5月24日(日) 13時30分～14時
③6月28日(日) 13時30分～14時

会場 福島県立博物館 体験学習室

出演 福島県立博物館 学芸員 荒木 隆

やさしい展示解説会

*展示解説員による常設展総合展示の案内です。

*毎週土曜日、日曜日の10時30分と14時から30分

ほどと行います。

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
*その他、行事等の詳細に関しましては、月行事予定やホームページをご覧ください。
常設展無料開放日
5月5日(火)こどもの日

4月～6月の休館日

4月6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)
5月7日(木)・11日(月)・18日(月)・25日(月)
6月1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)
23日(火)・29日(月)